



5月21日、青く晴れ渡る空の下、平山大運動会が開催された。地区で運動会が開催されるといのは、現在では珍しいことだろう。「9時半開会の予定やったけど、誰々さんのおじいさんがいまま家を出たそうやき、もうちょっと待ってねえ」そんなアナウンスが流れ、場内に笑い広がる。やがて開会式が始まり、

主催の平山青年団団長・坂本仁さんによる開会宣言。宣言とは言うものの、至って和やかでユルいものだ。この運動会は平成18年を最後に途絶えていたが、集落調査で地域に入っていた高知県立大学の学生たちの提案で、平成24年に復活。昨年からは平山青年団が引き継ぎ、県立大学も企画段階から携わる。

「自分たちが行動しなくては」「青年団というか、地域を盛り上げる何かをしたいとは、ずっと思っていた」と平山青年団の門田隆稔さんは話してくれた。そんな思いを抱えながら、地域の若者で集まって酒を飲み、いろいろな話をしたという。5年前から県立大学の学生が地域活動に入り、運動会の復活など力を貸してくるようになった。しかしその内、何か懸案事項があったときに、「学生が何とかしてくれるろう」という声を地域の人から聞くことがあったという。

「じゃあ、学生がいなくなったら平山はどうなるんだろうと。協力し力を借りるのは大切だけど、頼りきって任せてしまうのは違う。自分たちが住む地域なのだから、自分たちの問題として主体的に動かなくてはと思った」と門田さん。平成27年に香美市の地域づくり支援員として、現団長の坂本さんが平山に来たことをきっかけに、青年団が動き出す。団員を募集すると、地元住民のほか出身者たちも参加し、20代〜40代の男女約20人が集まった。もともと平山に潜在していた若い力は、青年団という形を得て力を発揮し始める。

「情熱だけでは続かない」平山青年団がまず直面した課題は、活動資金だ。地域のためにもなることで、資金を得る。着目したのは、道路の草刈りを請け負うことによる高知県や香美市からの作業委託料。これなら地域を守ることにまつながり、住民も喜んでくれる。今年度はこの草刈り委託により、100万円以上の活動資金を得ることができた。大前提は平山のため。しかし、気持ちだけでは続けていけない。「団員はみんな働き盛りの世代。仕事もあるし、家庭もある。そんな中、青年団活動として草刈りをする訳だから、当然の対価として日当を支払う。持続可能な取り組みであるべきだと思います」と坂本さんは話す。

「地元住民」対「県立大生」で行われた運動会は、老若男女が参加できる楽しい種目が並び、「瓶釣り競争といえどツネさん」「縄ない名人の長谷田さん」というようなスターも誕生する。お年寄り若者、そして子どもたちが一緒にあって楽しむ運動会。そこには常に、心地よい陽気な空気があふれていた。

運動会では、住民たちを巻き込んで心底楽しんでいける団員たちの姿があったし、夏祭りの企画を話し合うときも、冗談を飛ばしながら真剣に考えている。若者らしい前向きなエネルギーで、地域おこしを楽しんでるように見えた。

**ケース 03 平山青年団**  
土佐山田町平山

8月19日の17時からほっと平山で夏祭りを開催。屋台にステージに盛りだくさん！20時30分からは打ち上げ花火も！

平山青年団 団長 坂本仁さん

特集  
朝ですよ  
一地域をおこす人々

愛する平山のために。地域をおこす若者たち

平成28年、夏。土佐山田町ののどかな山里に、青年団が誕生した。その名も『平山青年団』。過疎化が進む平山地区を、いま、若い力が盛り上げている。楽しむことをモットーにしながら、地域のために奮闘する若者たちの姿は、平山に勇気と活力をもたらしている。



平山青年団のメンバー（左から小野寺洋介さん、比與森真平さん、山崎聡一さん、坂本仁さん、門田由紀子さん、門田隆稔さん）